

平成19年10月22日

## ITU無線通信総会(RA-07)の結果

平成19年10月15日(月)から同19日(金)まで、スイス(ジュネーブ)において、ITU無線通信総会(RA-07)が開催されました。  
本会合における主な結果を報告します。

### 1 主な結果

#### 1. 次期研究会期のSG構成

現在のSG4、SG8及びSG9を、地上系業務を扱うSG(新たにSG5と命名された。)と衛星業務を扱うSGの2つに再編し、合計6つのSG構成となりました。次研究会期の研究体制は別紙(PDF)のとおりです。

新たなSG5において、IMT、他の移動業務、固定業務に加えて、防災、災害救助等に関わる無線通信及びアマチュア無線を扱うことが合意されました。

#### 2. SG議長・副議長の選出

我が国から立候補していた以下の3名全員が議長及び副議長に選出されました。

- ・ SG5 議長 橋本 明(NTTドコモ)
- ・ SG4 副議長 阿部 宗男(KDDI)
- ・ SG6 副議長 西田 幸博(NHK)

SG5の議長には、日本、韓国及びニュージーランドからの3人が立候補していましたが、日本の橋本氏をSG議長に、韓国、ニュージーランドの候補を副議長にそれぞれ選出することで合意されました。

#### 3. IMT関連決議・勧告

##### (1)IMTの名称に関する新決議

IMT-2000後継システムを「IMT-Advanced」、IMT-2000及びIMT-Advancedを総称して「IMT」とする新決議が承認されました。

##### (2)IMT-Advanced国際標準化の基本指針に関する新決議

IMT-Advancedの国際標準の策定において、加盟国等への提案募集、提案技術の評価、コンセンサス形成等のプロセスの原則を定める新決議が承認されました。

##### (3)IMT-2000の詳細無線インタフェース勧告の改訂

IMT-2000の既存無線インタフェースの高度化及び新たな無線インタフェースとしてIMT-2000 OFDMA TDD WMAN(通称、Mobile WiMAX)の追加を行う勧告の改訂について、一部の国から異議が唱えられましたが承認されました。

### 2 今後の予定

総務省は、この結果を踏まえ、我が国の無線通信システムの発展、国際競争力強化に向けて努力するとともに、国際標準化活動が円滑に行われるよう、引き続きITUへ積極的に貢献します。

#### 関連報道資料:

- ITU無線通信総会(RA-07)の開催(平成19年10月12日)  
[http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071012\\_2.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071012_2.html)

連絡先 : RA-07について

情報通信政策局通信規格課

(担当 : 杵浦課長補佐、松浦国際標準係長)

電話 : 03-5253-5762

FAX : 03-5253-5764

ITU全般について

総合通信基盤局国際部国際機関室

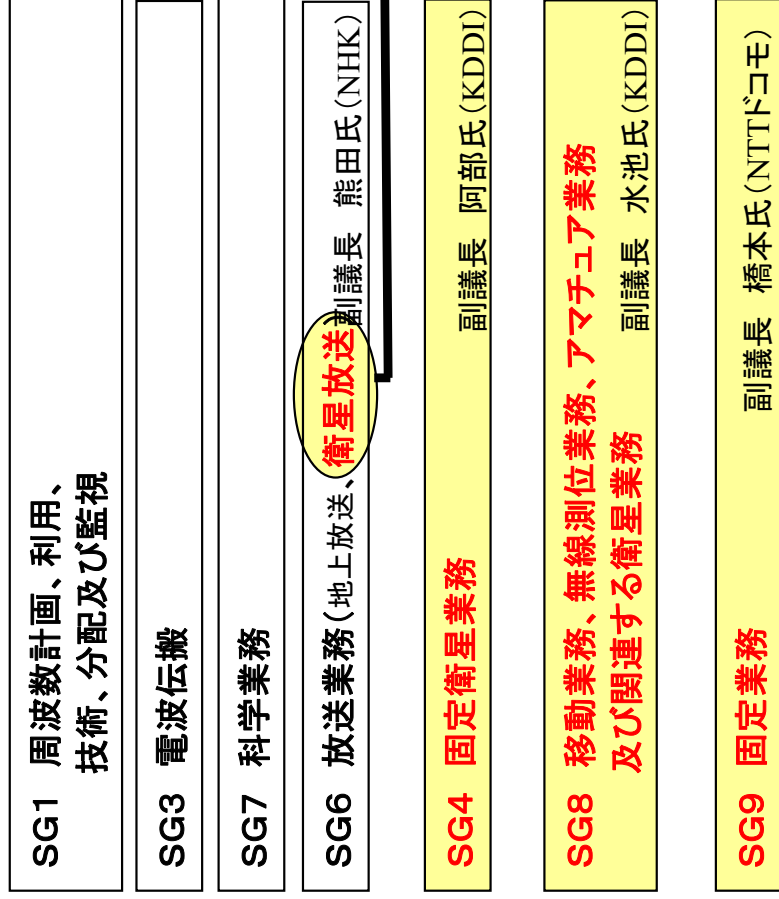
(担当 : 齋田課長補佐、宮良標準化係長)

電話 : 03-5253-5922

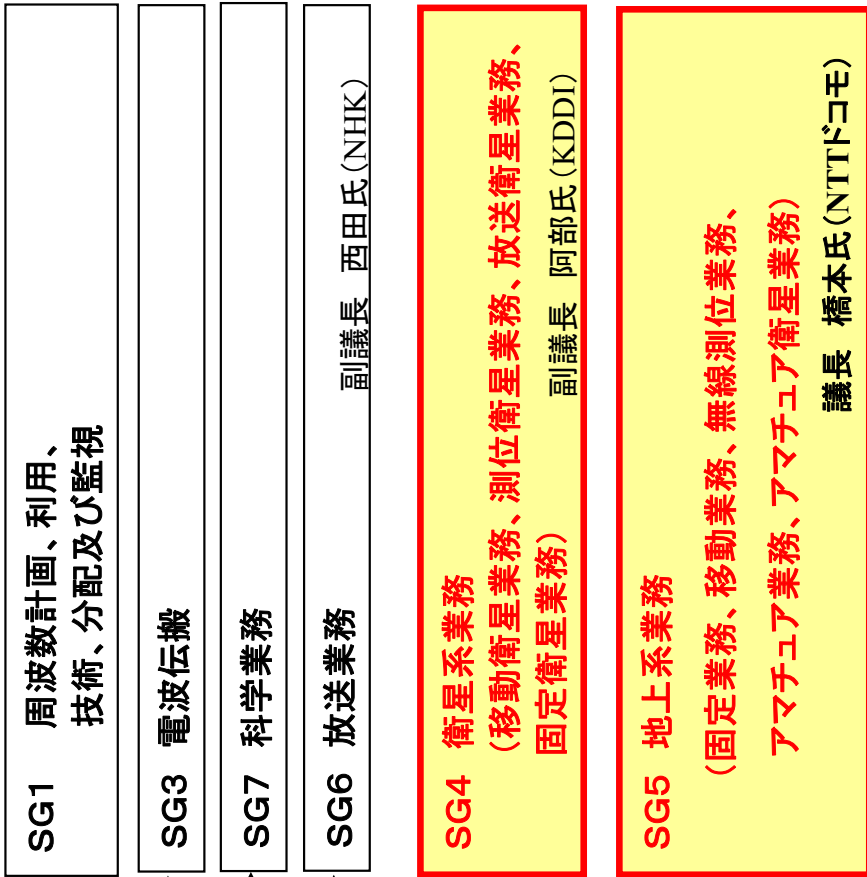
FAX : 03-5253-5925

# 次研究会期の研究体制について

## 旧研究会期(2004年-2007年)



## 新研究会期(2008年-2011年)



・最新の技術動向に応じた構成が必要  
・技術進展等により既存の区分では活動が非効率

(参考) 次研究会期における各研究グループの議長・副議長

名前	国
<b>Study Group 1 (周波数計画、利用、技術、分配及び監視)</b>	
議長	Mr. R. Haines 米国
副議長	Mr. R. Garcia De Souza ブラジル
	Mr. S.I. Gharbawi エジプト
	Mr. S.K. Kibe ケニア
	Mr. H. Mazar イスラエル
	Mr. S.Y. Pastukh ロシア
	Dr. C. Ryu 韓国
	Mr. V.V. Singh インド
	Mr. J. Verduijn オランダ
	Mr. X. Zhou 中国
<b>Study Group 3 (電波伝搬)</b>	
議長	Mr. B. Arbesser-Rastburg ESA
副議長	Mr. F.Y.N. Daudu ナイジェリア
	Prof. M. Pontes ブラジル
	Mr. J.C. Wang 米国
	Mrs. C. Wilson オーストラリア
	Prof. Dr. H. Zhu 中国
<b>Study Group 4 (衛星系業務)</b>	
議長	Dr. V. Rawat カナダ
副議長	阿部 宗男氏 日本
	Mr. O. Baiye ナイジェリア
	Mr. N.A. Bin Hammad ア首連
	Mr. M.G. Castello Branco ブラジル
	Mr. X. Gao 中国
	Mr. M.M. Simonov ロシア
	Mr. A. Vallet フランス
	Mr. J.J. Wengryniuk 米国

名前	国
<b>Study Group 5 (地上系業務)</b>	
議長	橋本 明氏 日本
副議長	Mr. T.K.A. Alege ナイジェリア
	Dr. A. Chandra インド
	Dr. J. Costa カナダ
	Mr. T. Ewers ドイツ
	Mr. C.T. Glass 米国
	Dr. A. Jamieson NZ
	Mr. A.I. Klyucharev ロシア
	Mrs. L. Soussi チュニア
	Mr. L. Sun 中国
	Dr. K.-J. Wee 韓国
<b>Study Group 6 (放送業務)</b>	
議長	Mr. C. Dosch ドイツ
副議長	西田 幸博氏 日本
	Mr. A.O. Bolarinwa ナイジェリア
	Ms. C. Dilapi 米国
	Prof. O.V. Gofaitzen ウクライナ
	Ms. K.-M. Kim 韓国
	Mr. R.R. Prasad インド
	Dr. G. Rossi パチカン
	Mr. F. Zou 中国
<b>Study Group 7 (科学業務)</b>	
議長	Mr. V. Meens フランス
副議長	Dr. H. Chung 韓国
	Ms. S.Y. Lyubchenko ロシア
	Mr. J.E. Zuzek 米国

名前	国
<b>CCV</b>	
議長	Mr. N. Kiarawi シリア
副議長	Prof. L. Barclay 英国
	Mr. J.-P. Huynh フランス
	Mr. H. Lebbadi モロッコ
	Mr. C. Menéndez Argüelles スペイン
	Mr. A.P. Pavlyuk ロシア
	Mr. F. Xie 中国
<b>RAG</b>	
議長	Mr. K.-B. Yao コートジボアール
副議長	Mr. Y. Al-Bulushi オマーン
	Ms. A.L. Allison 米国
	Dr. A. Magenta イタリア
	Dr. H. Seong 韓国
	Mr. V.A. Sirelets ロシア
<b>CPM</b>	
議長	Mr. A. Nalbandian アルメニア
副議長	Mr. A. Frederich スウェーデン
	Mr. V.I. Glushko ロシア
	Mr. J.-J. Massima ガボン
	Ms. S. Taylor 米国
	Mr. R. Abdelkader チュニア
<b>Special Committee</b>	
議長	Mr. M. Ghazal レバノン
副議長	Mr. J. Edane-Nkwele ガボン
	Mr. P.V. Giudici パチカン
	Mr. T.D. Kadyrov ロシア
	Mr. R.J.S. Kushiwaha インド
	Mr. L. Olson 米国
	Mr. B. Soury-Lavergne フランス
	Mr. T. Shafiee イラン